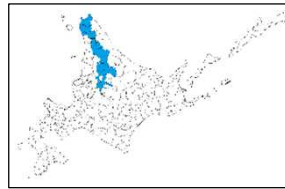


# 宗谷本線調査・実証事業協議会

令和5年6月22日設置



## 概要

JR北海道宗谷本線は、旭川駅～稚内駅間 38駅(うち有人駅 8駅、その他30駅)、259.4kmの路線で、旭川市・比布町・和寒町・剣淵町・士別市・名寄市・美深町・音威子府村・中川町・幌延町・豊富町・稚内市の4市7町1村にわたる路線である。

### ○JR北海道宗谷本線の輸送密度及び収支

令和5年度 輸送密度及び収支

- ・輸送密度 旭川～名寄 1,120人/日、名寄～稚内 252人/日
- ・営業損益 旭川～名寄 △3,365百万円、名寄～稚内 △2,823百万円
- ・営業係数 旭川～名寄 703円、名寄～稚内 903円

### ○JR北海道宗谷本線の課題

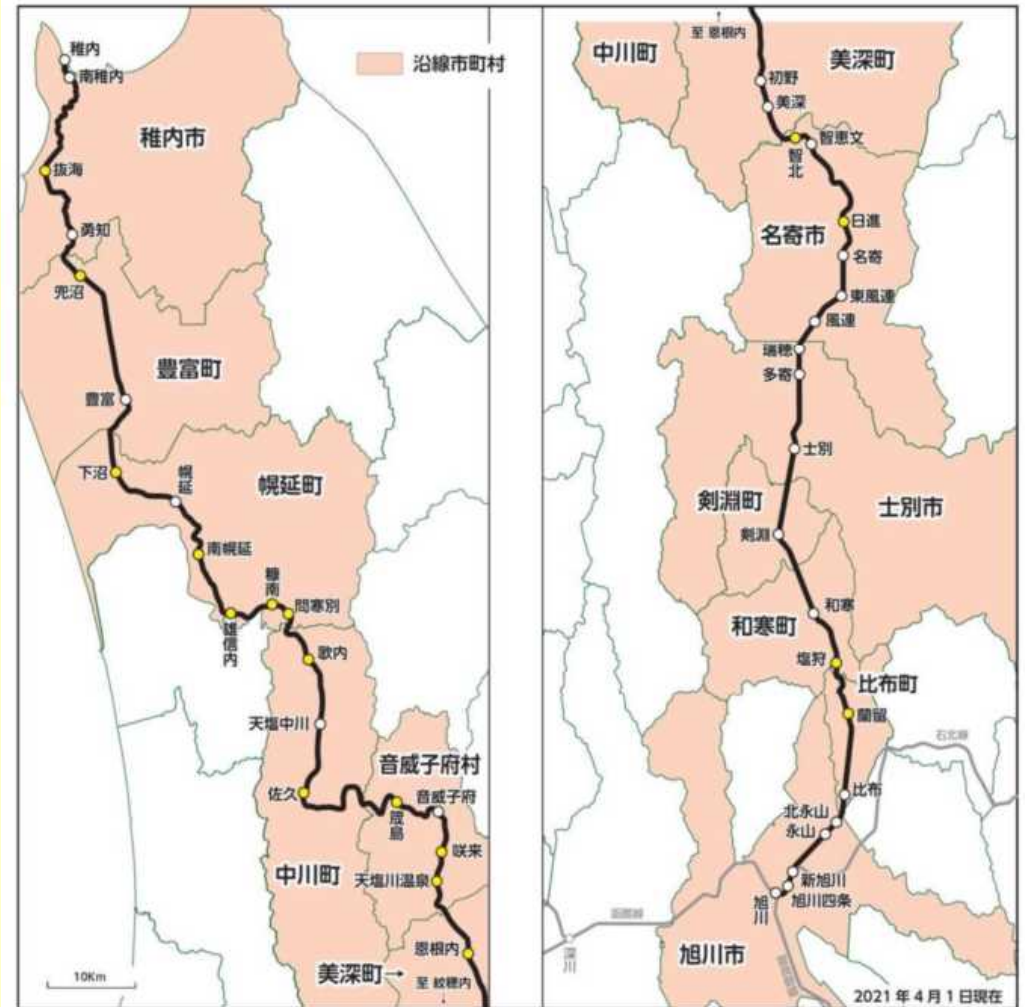
- ・交通サービス維持のための財政負担や運転手不足
- ・継続的な利用者の減少
- ・まちづくりと連携した公共交通

### ○地域公共交通再構築調査事業の主な内容

- ・幌延～稚内間下校時バス実証運行
- ・音威子府～名寄間生活圏域接続・直通バス実証運行

### ○宗谷本線調査・実証事業協議会開催状況

- 9月19日 第1回幹事会(Web)
- ・調査・実証事業取組(案)について
- 11月12日 第2回幹事会(Web)
- ・調査・実証事業取組の内容確認、総会議案の内容確認
- 12月10日 定期総会(書面)
- ・令和5年度事業報告、決算、令和6年度事業計画、予算
- 令和7年1月23日 第1回協議会
- ・調査・実証事業の事業報告、事業評価の承認



※恩根内駅、初野駅は廃止

## ●事業の結果概要

### 幌延～稚内間下校時バス実証運行

□目的 稚内高校、稚内大谷高校から帰宅時のバスを実証運行し、地域公共交通の利便性向上と利用促進を図り、地域公共交通の運行体系の見直し、コスト削減が図られるか検証する。

□事業概要 12月16日～20日までの5日間で幌延駅～稚内駅間で稚内高校・稚内大谷高校の生徒が帰宅時に利用されている普通列車と同時間帯で乗車できる高校直通バスを運行した。利用者にアンケート調査を実施し、今後集約、効果検証を行う予定である。

□結果 利用者数 延べ46人(図1参照)

- ・利用対象者は21人(高校聞き取り)、日平均9.2人という結果となった。
- ・豊富、幌延において駅以外の降車場所の利用者があった。

□実施結果をふまえた評価

- ・部活動や放課後の用事など生徒によって下校時間が異なるため利用者が伸び悩む結果となった。
- ・乗車は、駅まで移動する必要がないこと、降車は駅以外(豊富、幌延のみ)の降車場所を選択できることから、利用者や送迎する家族の負担軽減に繋がった。

日付	利用者数
12月16日(月)	14人
12月17日(火)	6人
12月18日(水)	13人
12月19日(木)	4人
12月20日(金)	9人

図1 バス利用者数

## ●事業の結果概要

### 音威子府～名寄間生活圏域接続・直通バス実証運行

□目的 音威子府駅から名寄市内までの接続・直通バスを実証運行し、地域公共交通の利便性向上と利用促進を図り、地域公共交通の運行体系の見直し、コスト削減が図られるか検証した。

□事業概要 12月16日～20日までの5日間で音威子府駅～名寄駅間で登校時、通院時に利用されている普通列車と同時間帯で乗車できる名寄市内接続・直通バスを運行した。利用者にアンケート調査を実施し、今後集約、効果検証を行う予定である。

□結果 利用者数 延べ7人(図1参照)

・一般利用者が4人、高校生が3人という結果となった。

□実施を踏まえた評価

・高校生:冬道の安全性確保等から通学利用するJR普通列車よりも20～30分程度早い時刻となってしまったこと、名寄高校生は名寄駅でのJRへの乗り換えが必要であったことから、利用対象者は18人だが、利用者数が伸び悩んだ。

・一般:音威子府から名寄市立病院への公共交通手段がなかったため、市立病院で降車できることで、通院者への利便性向上に繋がった。

日付	利用者数	
	一般	高校生
12月16日(月)	0人	0人
12月17日(火)	1人	0人
12月18日(水)	0人	0人
12月19日(木)	0人	2人
12月20日(金)	3人	1人

図1 バス利用者数

# 宗谷本線調査・実証事業協議会 地域公共交通再構築調査事業の取組状況

## ●事業の今後の改善点(特記事項含む)

### ○幌延～稚内間下校時バス実証運行

- ・下校時間は生徒によって異なるため、他の公共交通機関との組み合わせ等により運行時間の設定が必要である。
- ・利用者や送迎する家族の負担軽減を図るための、駅以外の停留所の設定については、利便性向上のためどこに設定するのが良いのか引き続き調査・検討が必要である。
- ・アンケート調査結果をふまえ、利用者ニーズを把握しながら事業を改善していく。

### ○音威子府～名寄間生活圏域接続・直通バス実証運行

- ・乗車場所等の見直し検討を行い、運行時間短縮を図り乗車しやすい時刻表に見直す必要がある。
- ・市立病院への停車時間の利便性を考慮しながら、名寄高校への停車についても検討が必要である。
- ・一般利用者の利用者数増加のため、周知期間の確保や周知方法に工夫検討が必要である。
- ・アンケート調査結果をふまえ、利用者ニーズを把握しながら事業を改善していく。

## ●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施されている。

## ●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は計画どおりに実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・音威子府～名寄間生活圏域接続・直通バス実証運行の今後の利用ニーズの把握について、アンケート結果の検証に加え、学校や病院関係者と調整し、ニーズに合った実証事業とすることもご検討いただきたい。
- ・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。